

令和2年度 司書補講習 講義概要(シラバス)

生涯学習概論

講師 にしむら 西村 みとし 美東士

講義概要・授業計画 生涯学習とは、個人が自己のもの見方・考え方を生涯にわたる学びによってより発展させ、暮らしや仕事を充実させる自己決定の活動である。同時に、今日では、人々がたがいに学びあい、支えあうことによって、地域や社会を形成する相互関与の活動としての側面が注目される。

平成20年2月の中央教育審議会答申においては、図書館は、社会教育施設の中でも利用度の高い、いわば「地域の知の拠点」として、今後も国民が生涯にわたって自主的な学習を行っていく上で、大きな役割を果たしていくことが期待されている。平成21年2月の「これからの図書館の在り方検討協力者会議」の報告では、「司書が、地域社会の課題や人々の情報要求に対して的確に対応できるよう、図書館に関する基礎的な知識・技術とともに、課題解決を支援するための行政施策・手法や図書館サービスの内容と可能性を理解するよう求めている。

このようなことから、「図書館の設置及び運営上の望ましい基準」（平成24年文部科学省告示第172号）では、市町村立図書館について、「利用者がインターネット等の利用により外部の情報にアクセスできる環境の提供、利用者の求めに応じ、求める資料・情報にアクセスできる地域内外の機関等を紹介するレフェラルサービスの実施に努めるものとする」とし、利用者及び住民の生活や仕事に関する課題や地域の課題の解決に向けた活動を支援するよう求めている。

今後の図書館司書養成においては、個人の充実のみならず、公共的課題の解決のための地域の人や施設、機関に関する情報までも提供できる人材を育てる必要があるとされていることに注目しておきたい。

本講義においては、生涯学習の視点から、人々の暮らしと仕事に根ざしたニーズを理解しようとする。さらには、そこにとどまらず、これらの学習をつなげ、広げ、深めるよう支援して、地域や社会を形成する相互関与の活動を促進するような情報提供・学習相談のあり方を明らかにしたい。

アドバイス 濃厚接触を避けて、電子上での交流を図るアクティブラーニングを行う。これによって、自己内対話、対他者対話による能動的学習、双方向型学習を実現させる。そこでのあなたの学びの過程と成果は、各段階におけるワークシートに記録される。

図書館の基礎

講師 やまぐち 山口 ひろし 洋

講義概要・授業計画 初めて図書館情報学を学ぶ人たちが、最初に考えるべき基本的な知識と考え方を習得します。具体的には、図書館とは何か？ なぜ必要なのか？ なぜ司書の資格が必要なのか？ などについて図書館の発生から現在に至る歴史とともに、現在の図書館の種類、目的、活動を踏まえて考察します。また近年における図書館界の諸問題についても検討します。

授業の進め方は講義形式を中心としますが、適宜、受講生に発言を求めます。また受講生によるグループ討議や全体討論も行います。

1. 図書館とは何か
2. 図書館の歴史
3. 現代の図書館の種類と機能
4. 図書館の法的基盤
5. 公共図書館の役割
6. 図書館の理念
7. 図書館が抱える諸問題（時事問題から職員制度、運営形態まで）
8. まとめと試験

教科書 塩見昇 編著『図書館概論 五訂版』（JLA 図書館情報学テキストシリーズ III 1）（日本図書館協会、2018）
今まど子・小山憲司 編著『図書館情報学基礎資料 第3版』（樹村房、2020）

参考書 前川恒雄、石井敦 共著『新版 図書館の発見』（NHK ブックス、2006）
（版元品切れにつき、最寄りの図書館で借りて読んでおきましょう）

アドバイス 上記参考書『新版 図書館の発見』を事前に熟読することをおすすめします。授業の理解が深まるでしょう。また図書館を利用して、各自の図書館のイメージを作りましょう。そのためにも、受講前までに身近にある地域の図書館を利用することと、色々な図書館を見学してみましよう。

講義概要・授業計画 この講座では、図書館サービスの態様を様々な切り口から取り上げ、図書館サービスの在り方について、そして図書館、図書館員の存在意義について学んでいきたいと思います。具体的には、図書館サービスの法的な枠組み、その意義と理念・歴史、図書館資料の収集、資料提供サービス、レファレンスサービス、ダイバーシティと図書館サービス、図書館協力・連携、デジタル時代の図書館サービス、図書館サービスの課題と展望 を内容とします。講義は、グループディスカッション、グループワークなど、双方向で行うかたちを積極的に取り入れたいと思います。また、映像も用いる予定です。受講生の皆さんは、好きな本、行いたい図書館サービス、図書館員として気をつけたいことなどについて、普段の生活の中で考え、思いついたことを、頭の中、ノート、どこでもいいので、メモにとどめておいてください。講義の中で、話し合いたいと思います。図書館は今や、伝統的な役割を超越した、大量な情報の媒介者、知識基盤であり、世の中の知識を組織化するという役割を担っています。社会の変遷を見据え、図書館サービスの新たな役割を追求し、共有することを、講義を通じて目指します。

教科書 今まど子・小山憲司 編著『図書館情報学基礎資料 第3版』（樹村房、2020）

参考書 前川恒雄、石井敦 共著『新版 図書館の発見』（NHK ブックス、2006）
『NHK ラジオ 実践ビジネス英語』NHK 出版、2020.1.

アドバイス 夏の暑い時期の集中講義です。集中力を持続させるために、受け身で講義を聴くのではなく、自らが参加するという気持ちで臨んでいただければと思います。機会を作るようにしますので、考えるところを積極的に披露してください。何事にも問題意識を持ち、前例に捉われることなく、柔軟に、利用者の視点で、図書館サービスを考えてみてください。また、読書などを通して、正しい文を書くことを普段の生活から心がけてください。

レファレンスサービス

講義概要・授業計画 図書館は収集、組織、保存、提供の4つの基本的機能を持つと考えられていますが、このうちの提供機能を担うのが貸出とレファレンスです。この講義では、レファレンスの意義、レファレンス質問の受付から回答に至るまでのプロセス、レファレンスコレクションの構築などの情報源の組織について解説します。図書館におけるレファレンスサービスの位置づけと機能を確認し、レファレンスサービスの中心である質問回答と、それを支える仕組みづくりについて論じます。さらに、質問の受付から探索を経て利用者への回答を行うまでのプロセスを解説するとともに、レファレンス記録の活用についても触れます。

教科書 竹之内禎 編著『情報サービス論』（ベーシック司書講座・図書館の基礎と展望；4）（学文社、2013）

アドバイス 国立国会図書館が運営する「レファレンス協同データベース」(<http://crd.ndl.go.jp/reference/>)では実際のレファレンス事例が多数紹介されており、司書さんの「調べ物」スキルを垣間見ることができます。ぜひチェックしてみてください。

レファレンス資料の解題

講義概要・授業計画 辞書や百科事典、年表や統計などのレファレンス資料は従来は冊子体が一般的でしたが、現在では、書誌や目録、索引などを含めてその多くがインターネット上で利用可能になっています。この講義では、レファレンス資料の種類と特質を論じるとともに、代表的なレファレンス資料について解説します。さらに、レファレンス質問の回答例を検討する中で、インターネット上での情報源の探し方と利用についても考えます。

教科書 竹之内禎 編著『情報サービス論』（ベーシック司書講座・図書館の基礎と展望；4）（学文社、2013）

講義概要・授業計画 第四次産業革命のコア技術であるビッグデータ、AI、IoT、ブロックチェーン等の到来により、「マシン×人間の協働時代」や「一億総キュレーター時代」と言われる昨今、図書館のレファレンスサービスやそれを支えるシステムも変革を余儀なくされている。

また、学術文献は一次情報・二次情報やライセンス・オープンを問わず日々出版・公開され、インターネット空間にはソーシャルメディアやオープンデータ等が時々刻々と増殖し、その裏側では利用ログやセンサーデータが記録されている。これらのいわゆるビッグデータの中からノイズを排除し、ユーザーに必要と思われる情報を網羅的かつ効率的に収集し選別するにはAIなどの外部脳を巧みに使いこなすスキルが必要となる。

そのためには、最新技術動向を絶えず観察し、新しいサービスや製品が登場したら真っ先にトライアルしてみるといったアーリーアダプターの特性が求められる。特に、研究やビジネス領域に於いては、そのスピードとフィルターの精度が重要となる。その意味でも、今こそインフォプロである図書館員が図書館に限らず様々な場面で活躍できるチャンスと捉えることができる。

本講義の前半では、情報検索のしくみや情報資源・情報サービスについて解説すると共に既存のOPACやディスカバリーサービス等の図書館の検索サービスの課題やアップデートのポイントについて概説する。続いて後半では、これからの図書館およびインフォプロである図書館員はどのような情報技術を用いて、どのような検索サービスを創造し、提供していくべきかについてグループ演習を行う。

教科書・参考書 購入の必要はありません。以下は一部です。

- ・一般社団法人 情報科学技術協会 監修／原田智子 編著／吉井隆明・森美由紀 著『検索スキルをみがく 検索技術者検定3級 公式テキスト』（樹村房，2018）
- ・一般社団法人 情報科学技術協会 監修／原田智子 編著／小河邦雄・清水美都子・丹一信・藤井昭子 著『プロの検索テクニック 検索技術者検定2級 公式推奨参考書』（樹村房，2018）
- ・市古みどり、上岡真紀子、保坂睦 共著『情報検索入門』（慶應義塾大学出版会，2014）
- ・飯野勝則 著『図書館を変える！ウェブスケールディスカバリー入門』（ネットアドバンス，2016）
- ・前田 亮、西原 陽子 著『情報アクセス技術入門 情報検索・多言語情報処理・テキストマイニング・情報可視化』（森北出版，2017）
- ・小島原典子、河合富士美 編『PICOから始める医学文献検索のすすめ』（南江堂，2019）

アドバイス 本講義では、キーワード検索、フルテキスト（全文）検索、横断検索、統合検索、ファセットなど情報検索に関する知識を習得し、個人演習では実際にいくつかのデータベースを検索し、グループ演習では「ブロックチェーン×カタログ」や「AI×レファレンサー」など最新の情報技術と図書館員のスキルを融合してセマンティックな情報検索サービスを模索します。ラフスケッチで構いませんので、事前にアイデアを考えてきてください。

図書館の資料

講義概要・授業計画 図書館の構成要素といわれる「資料」「施設」「職員」のうち、サービスの基本となる図書館の資料について学びます。具体的には、図書館資料の歴史、種類、流通、選択と蔵書構築、保存、管理法を学ぶことに加えて、図書館がインターネット情報資源をどのように位置づけることが望ましいのか、また、図書館サービスの現場で発生する諸課題と今後の展望についても学びます。

教科書 馬場俊明 編著『図書館情報資源概論 新訂版』（JLA 図書館情報学テキストシリーズⅢ 8）（日本図書館協会、2018）

アドバイス 利用者の図書館利用の目的は多様です。ただ、言えることは、趣味として、資格取得のため、授業の予習・復習のためであれ、図書館が利用者の目的に対してあらゆる支援をする姿勢とたゆまず持ち続ける創意工夫が大切だということです。ネット時代にあって変化は著しいものがありますが、これを恐れることなく、チャレンジ精神で取り組んでいきましょう。どのように振舞うのが図書館の司書らしいのかを問うのではなく、何が図書館の利用者の読書欲や知識欲に応えられるサービスになるのかを問い、それを図書館の「資料」収集や管理に活かしていきたいものです。

講義概要・授業計画 図書館の仕事は、外から見ると貸出・返却やレファレンスのような対人サービス（直接サービス；パブリック・サービス）ばかり注目されがちですが、利用者に適切な資料や情報を提供するには、情報資源を収集し、整理しておく必要があります。

無数にある情報資源の中から利用者が必要なものを呼び出すために「データを作成」し（目録記述）、それらを適切に配置・提示するために「内容に応じて分類」する（主題分析）という作業は今も昔も図書館の重要な任務のひとつです。これらの作業は直接サービスに対して「間接サービス（テクニカル・サービス）」と呼ばれます。

この講義ではこれらの意味と必要性、歴史的経緯、現代の図書館における状況および近い将来予定・予想されることについて取り扱います。

教科書 那須雅熙著『情報資源組織論及び演習 第2版』（ライブラリー図書館情報学9）（学文社、2016）

参考書 ※下記の参考書につきましては、大学で用意して貸出いたします。

日本図書館協会目録委員会編『日本目録規則 1987年版改訂3版』（日本図書館協会、2006）

日本図書館協会分類委員会改訂『日本十進分類法新訂10版』（日本図書館協会、2014）

日本図書館協会件名標目委員会編『基本件名標目表第4版』（日本図書館協会、1999）

アドバイス 整理業務は、利用者の目からは見えづらい「縁の下の力持ち」の部分ですが、図書であれ電子情報源であれ、適切な目録と分類がなければ情報を探すことはできません。なるべく身近な話題や新しい話題、珍しい資料の紹介なども交えていくので、どうぞ整理業務にも関心を持ってください。

講義概要・授業計画 整理業務の重要性は「資料の整理」で講義する通りです。この演習では「資料の整理」の講義を踏まえて、業務の実際にあたってどのように整理するか、(1) 日本目録規則（NCR）(2) 日本十進分類法（NDC）(3) 基本件名標目表（BSH）といった各種のツール（道具）の使用方法を中心に、初歩的・基本的な実践能力を身につけます。演習は複数人のグループで実施します。

教科書 那須雅熙著『情報資源組織論及び演習 第2版』（ライブラリー図書館情報学9）（学文社、2016）

参考書 ※下記の参考書につきましては、大学で用意して貸出いたします。

日本図書館協会目録委員会編『日本目録規則 1987年版改訂3版』（日本図書館協会、2006）

日本図書館協会分類委員会改訂『日本十進分類法新訂10版』（日本図書館協会、2014）

日本図書館協会件名標目委員会編『基本件名標目表第4版』（日本図書館協会、1999）

アドバイス 整理演習は小難しい用語が多く、膨大な規則や表を前にすると身構えてしまう人が多いですが、実は基本的な使い方さえおさえてしまえば後はツールを参照しながらの作業です。難しいことと考えず、肩の力を抜いて、『知識の宇宙』を散歩するような気持ちでいきましょう。

講義概要・授業計画 この講義は公共図書館における児童を対象とするサービスを中心に講義を進めます。また、児童向け図書資料への理解と子どもと本を結びつける技術の習得をめざします。前半は児童サービスの意義、児童室の運営や業務、児童図書や児童サービスの歴史について講義し、後半は子どもと本を結ぶ「読み聞かせ」演習を行います。また、ブックスタートからヤングアダルトサービスに至るまで発達段階に応じた読書支援活動のうち「ブックトーク」「ストーリーテリング」「読書のアニメーション」等について解説しグループで実習します。演習・実習については1日目に説明します。

1. 児童サービスの意義と役割
2. 子どもの発達と読書
3. 児童室の運営と業務・児童図書館の歴史
4. 児童資料の種類
5. 「読み聞かせ」解説と演習
6. ブックトーク・ストーリーテリング・読書のアニメーションの解説と実習
7. ヤングアダルトサービス
8. 学習支援としての児童サービス及び今後の課題

参考書 堀川照代 編著 『児童サービス論 新訂版』(JLA 図書館情報学テキストシリーズ III6)
(日本図書館協会、2020)

アドバイス 講義とともに読み聞かせ実習を行います。読み聞かせ実習用に準備していただく図書資料は本学図書館児童室にある世界の絵本コレクションを活用なさると良いでしょう。ストーリーテリング・読書のアニメーション演習用の資料はこちらで準備します。

講義概要・授業計画 この講義はメディア・リテラシーの修得を目的とします。メディア・リテラシー(media literacy)という言葉の概念については、「情報を評価・識別する能力」、「情報を処理する能力」、「情報を発信する能力」などといった解釈がされていますが、この授業では「情報を評価・識別する能力」という意味のメディア・リテラシーについて、以下の順に説明・考察していきます。

1. 表現の自由の意味と意義
2. 報道の使命とニュースの価値判断
3. ニュースの機能と効果
4. 世論形成の仕組み
5. 報道と人権①名誉棄損と免責
6. 報道と人権②プライバシーの侵害と免責
7. 報道と人権③人権問題をめぐる判例の考察
8. 報道と人権④差別用語・ヘイトスピーチ

参考書 吉見俊哉 著『メディア文化論』(有斐閣アルマ、2012)

アドバイス 夏期講習は肉体的にも、精神的にも消耗戦です。しかし、成し遂げたものにしか分からない満足感と充実感、そして何より知的財産が得られます。そのような知的財産の伝播と社会的利益との関係を考察しましょう。